外国人への入学枠 設置の札大通高

出身国文化を発信「遊語部」

10カ国の20人所属 ■ 学校になじむ居場所に

ロシア人講師（右）のアドバイスを受けながら、ロシアンダンスの練習に励む遊語部の部員たち

道内の公立高で唯一、外国人の特別入学枠（5人程度）を設けている札幌市中央区の市立札幌大通高校（佐々木雅男校長、1107人）に、同校ならではのユニークな部活がある。さまざまな国籍の生徒が集い、文化を紹介する「遊語部」。多文化共生教育の推進だけでなく、日本の生活になじみにくかった外国人生徒たちの居場所にもなっている。（鹿内朗代）

英語、韓国語、日本語…。ぎ、さまざまな言語であいさつが飛び交う。教室に続々と集まってきた遊語部の毎週火曜と木曜のお昼す生徒たちの出身国はフィリピンや韓国、中国、ロシア、ハンガリーなど。日本も含めて10カ国の20人が在籍する。

現在の活動の中心は、8月に開催される市立高校総合文化体育大会で披露するロシアンダンスの練習だ。懸命に踊る子もいれば、座って練習を見守る子も。ダンスの音源を探すなど活動を引っ張る1年の竹中美紀さん(15)はロシア・サハリン州生まれ。「ここには仲間がたくさんいるから、皆、自然体で過ごせるんです」と笑顔を見せる。

大通高は2008年に開校。多様な生徒を受け入れる理念から外国人の特別入学枠を設けたものの、初年度は学校になじめずに退学する生徒が相次いだという。09年に遊語部の顧問を務める佐藤千恵子教諭(28)が赴任。日本語が苦手な生徒のために「国際クラス」を作り、言葉や学校生活の面倒を1年にわたって見るシステムを作った。

国際クラスの生徒同士がお互いの言語を学ぶ活動をしようと、同年、佐藤教諭が「遊語サークル」を立ち上げ。中国語とロシア語を学んだが「勉強だけではつまらない」と、自国の文化を紹介すべく、フェアトレードフェスタｉｎさっぽろ（大通公園）やスピーチコンテストなどのイベントに参加。真駒内公園小（南区）で出前授業も行うなど徐々に高校から飛び出し、14年に部へ昇格した。これからも校外での活動を1～2カ月に1回の割合で予定している。

部員たちの日本語のレベルはまちまちだが、部長の3年ルーリンツ・クリスティーナさん(17)は「間違えても、皆同じだから笑いあえる」と話す。

ルーリンツさんは小学2年まで、ハンガリーの首都ブダペストで過ごし、牧師を務める父の仕事で来札した。編入した小学校では「授業も会話も分からない。つらかったけれど、今はいい経験だったと思う」。友人たちの輪に入れない寂しさが分かるだけに、日本語が流ちょうではない部員たちにも英語などで積極的に声をかけている。

4歳でサハリンから北海道に移った竹中さんも、小中学校でクラスメートの中に入りにくかった感覚が分かるという。「ロシアに良いイメージを持っていない人もいて、少し壁があった。遊語部の活動で文化を紹介して、ロシアにも良いところがあると思ってほしい」と話す。

生徒たちの活動を支える顧問の佐藤教諭も、中国・ハルビンの生まれだ。日本語が話せずにつらい思いをした中学生時代の経験を胸に、生徒たちを見守る。佐藤教諭は「早くなじめとばかりに、日本語や日本の文化ばかりを教えられ、ストレスを抱えている生徒は多い。自分の国の文化を発信する活動を通して、誇りや自信を持たせてあげたい」と話す。

学びing

教科書検定

権利侵害の記述「不十分」

札幌 アイヌ民族 修正で集会

教科書の記述内容の問題点を訴える若月美緒子代表

来年度から中学校で使われる一部の歴史教科書で、「北海道旧土人保護法」に関する記述が文部科学省の検定意見により修正されたことを受け、アイヌ民族に関する教科書の記述内容を考える集会が27日夜、札幌市中央区の札幌市民ホールで開かれた。（中秋良太）

教員や北海道アイヌ協会関係者など有志7人による「教科書のアイヌ民族記述を考える会（準備会）」（若月美緒子代表）が開催し、約30人が参加した。

文科省が公表した教科書検定結果などを説明した若月代表は「アイヌ民族が受けた権利侵害について、不十分な内容が目立つ」と指摘。参加者からは「アイヌ民族側の視点に立った記述を求める必要がある」といった意見が出た。会は7月に正式発足する。

検定結果では1社の教科書で、保護法についての記述が「アイヌの人々の土地を取り上げて」から「アイヌの人々に土地をあたえて」に修正された。

北方領土 根室から探る

北大スラブ・ユーラシア研 研究者らセミナー

北方領土問題について解説するファベネックさん

セミナー「根室からみた北方領土問題」が27日、北大スラブ・ユーラシア研究センターで開かれ、約40人の市民が耳を傾けた。

センターの岩下明裕教授(52)は「四島一括での返還を口にしているうちは、解決できないのではと感じている北方四島の元島民もいる」と語った。

根室市北方領土対策課に専門研究員として滞在したフランス人大学院生ヤン・ファベネックさん(30)は、ロシアによるサケ・マス流し網漁禁止の背景を説明した。ウクライナ危機をめぐって、欧米が科した制裁に対する反発との見方を否定し「報復なら一時的に閉め出すはず。法

薬物 絶対だめです！

ガールスカウトら訴え

買い物客に薬物乱用防止啓発物を手渡す

札幌

薬剤師や民生委員らでつくる北海道薬物乱用防止指導員札幌地区協議会は28